

新しい公共交通システムのイメージ（2018年10月時点） 補足説明

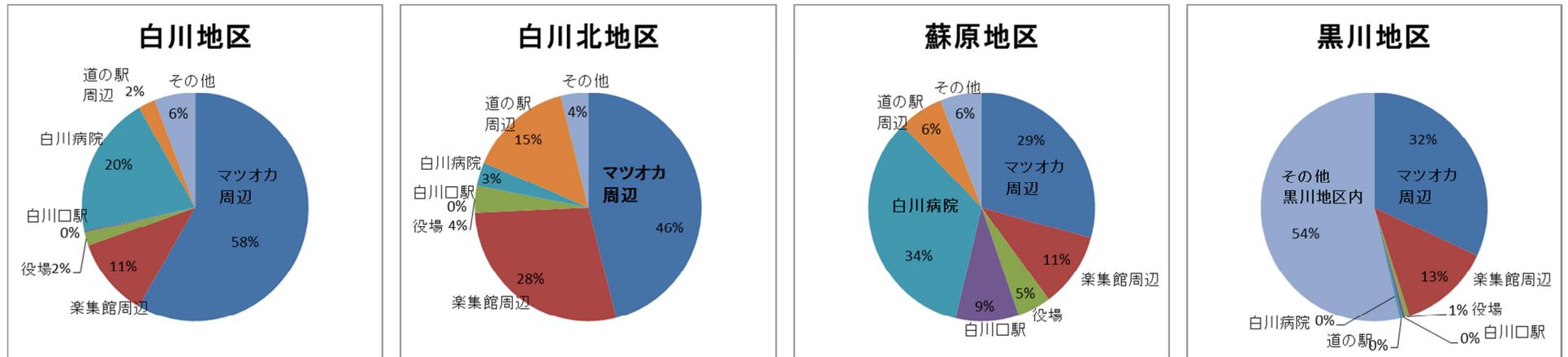
これまで説明してきた内容	今回、計画案に記載した内容
<p>○路線バスは1路線になる</p> <p>白川線 ⇒ 継続 佐見線、黒川線、蘇原線 ⇒ 廃止</p> <p>運行事業者 H30.10月～H32.9月 = 現行バス会社</p> <p>※H32.10月以降の事業者は、今後検討</p> <p>※課題 1路線では営業所の体制維持が困難（事業量不足）</p>	<p>●路線バスを2路線にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『白川線』⇒『白川東白川線』 名称変更 ・<u>2駅と主要4箇所を結ぶ路線を設定し、現行バス会社が運行</u> ⇒『白川中央線』 計2路線 運行
<p>○白川町内は、バスに替わって自家用有償運送を実施する</p> <p>各地区単位 10人乗りワゴン 予約運行（デマンド型）</p> <p>運行方式 地域部会主導で決定</p> <p>運行事業者 タクシー会社に委託 ※一部バス会社に委託 又は 町直営（地域部会運転手が運転）</p> <p>※<u>路線バス会社の事業量不足に対応するため、白川地区又は白北地区のデマンド型運行は現行バス会社が担当</u></p> <p><u>バス会社運行の場合は、乗合事業（緑ナンバー）となる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・方法自体は変更なし ・全地区とも自家用有償運送で実施 <p>運行は タクシー会社委託 又は 町直営（地域部会運転手） （バス会社による乗合タクシー運行は実施しない）</p>
<p>○東白川村は、以前の状態に戻る</p> <p>代替バス ⇒ 廃止 福祉有償運送 ⇒ 継続</p> <p>運行事業者 村直営（臨時職員が運転）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変更なし
<p>○土日祝日の運行を再開する</p> <p>○19時台のJRに合わせた運行で帰宅の足を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変更なし ・変更なし

■これまで未解決の問題点

- ・休日、来訪者が駅からどこにも移動できない（タクシー1台のみ）
- ・各地区の車両が個別に運行するので、連携した動きがない。主要目的地を除き他地区に行く足がない。
- ・佐見地区は、主要目的地に下呂方面（下呂・萩原・金山）を設定 ⇒ 白川病院や白川方面に行けない人ができる

■実証運行でわかってきたこと ⇒ 行きたい場所は、**マツオカ・楽集館付近・白川病院・道の駅**（ピアチェレ・チャオ）

- ・佐見地区以外の4地区は、利用者の目的地はマツオカ等の数箇所に集中



主要目的地を結べば、目的地に行ける回数が増える。駅も結べば、来訪者が各地区車両に乗れる機会ができる

下油井駅 = **道の駅（ピアチェレ）** = **白川病院** = **白川口駅** = **楽集館（Vドラッグ）** = **マツオカ** 片道30分

- ・地区車両（ワゴン車）を上記6箇所で路線バスに接続 ⇒ 乗り継ぎすれば、ワゴンが行かない目的地でも行くことができる。
- ・地区車両を地域内交通に使える時間帯が増やせる。

（活用例） 佐見 白川病院に行きたい人は下油井駅で降りし下呂方面へ。帰りに下油井駅でひろって佐見に戻る。

蘇原 赤河の2人をマツオカで降りし切井の人を向かえに行く。赤河のうち1人はバスに乗り白川病院へ

黒川 マツオカで停車中に、白川口駅からバスで来た来訪者を乗せて黒川へ